

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300602		
法人名	株式会社 メゾネットホールディングス		
事業所名	グループホーム あぐり(A)		
所在地	岡山県和気郡和気町日室124-1		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3392300046-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2-2-18
訪問調査日	令和 4 年 6 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の時間の流れを大切に、モンテッソーリケアに取り組んでいます。ご自分で出来る限り取り組めるよう、秩序感のあるわかりやすい環境設定に努めています。

職員自身も人的環境となり「見る」「促し」「待つ」姿勢に努めています。生活の中で役割を持っていただくことで、ここでの「生きがい」「やりがい」へつながるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新しい職員が、ベテランとともに助け合い、家よりも癒せれるくらい温和で、施設が以前より穏やかな雰囲気となっている。ユニットごとに自由に動け、利用者や職員と話ができやすく個人の不安以上に、相談に乗る場合が多々ある。装飾も自分で創作する職員がいて、自由に任せた雰囲気となっている。女性から男性の管理者になったユニットも前向きに新しいことにチャレンジしていて、家族が協力的なことから、コロナ対策をしながら花見も行った。また、お花見と称して花見弁当も出し、ストレス解消となった。入浴拒否の方に対しても考え方を変えて、夕食後に入浴できるひと手間かけることで、すんなりとした入浴ができ、職員も納得がいく心配りに満足し、有難い入浴ともなっている。全体的に声掛けも優しく、「ちょっと待って」のロックの言葉が減った。「あんたこれができてないが…」ということがなく、チームとして役割分担やそれ以上の関係を以って愛情を持っていた。人が人を育てていることで、利用者の行動と思いに笑顔を運んでいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、施設内に理念を掲げています。また、C会議（リーダー会議）、D会議（職員会議）などで確認しています。	玄関や各フロアのリビングに理念を掲示して、いつでも確認できるようにしている。会議の場で、理念について振り返り、理念に基づいたモンテッソーリケアが行えるように話し合っている。	地域との密着が出来るように職員一人ひとりの思いをしたためてはいかがでしょうか？	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染のため行事は中止になっています。電話などでの連絡は継続して行っています。	施設長は、役場や病院の関係者、町内会の方々との繋がりも深く、何でも話せる関係が出来ている。職員も地元の方が多く、近所づきあいも良好に行えている。また、施設横の道路が中学校の通学路になっており、挨拶を交わし、より深い関係となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、モンテッソーリケアをはじめ、認知症ケアの実践を報告しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、そのうち年3回は全利用者のご家族も交えて開催しています。そこで話し合った意見、要望を参考にして、より良いサービスにつなげられたらと思っています。今年度は中止しましたが、文書で報告しています。	コロナ禍であるため、会議の書面を役場と区長へ持参している現状である。意見は、持参時や電話にて聞き取っていて、日頃から何でも相談ができる関係となっていて、8月より運営推進会議を再開し、地域の方にも参加をお願いしている。		
5	(4)	岡山市北区岩井2-1-37 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議、地域密着型サービス協議会などを活用して、意見交換や相談、相互の助言を行うなど、より良い関係づくりに努めています。	役場への対応は本社がしている。施設長も役場の担当者とも何でも話せる関係が出来ている。地域密着型サービス協議会の報告書は、役場から定期的に送られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はこれまでの経緯も踏まえ、現在施錠をしています。定期的に研修や身体拘束廃止委員会を行い、防止に努めています。	玄関の施錠は、安全面を考え行っているが、両ユニット間のドアは解放されており、自由に行き来できるようにしている。委員会や研修では、身体拘束に至る可能性のある不適切なケアについて話し合い、スピーチロックも殆どみられなくなった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のC会議、D会議で話し合いを行っています。また、それに関する研修も実施し、職員全体の意識向上に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者の方もおられるので、行政の主催の研修などに参加して、皆で理解して活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者から十分な説明を行っており、ご家族は理解、納得されていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交流会での意見の交換、面会時の意見、希望などの傾聴、苦情・要望などの対応させて頂いています。意見、苦情がある場合は、その都度、皆で話し合い解決するように心がけています。	ご本人の意思が伝えられない方は、ボディランゲージや表情で意向を汲み取るようにしている。ご家族とは、電話連絡を密にすることで、良い関係性が取れるようになり、情報の確保ができています。昨今の感染対策についても、理解と協力を得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員に業務報告書を提出してもらっています。その中の意見を拾い、C会議、D会議にて検討しています。適宜、面談も行っています。	職員と施設長間の風通しも良く、職員同士が長所短所を補い合える関係作りが出来ている。会議の後も茶話会を開き、積極的にコミュニケーションの場を作っている。施設が第2の我が家のように話している職員もいて、働きやすい環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見を聞き、なるべく期待に添えるように努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修に沿って、研修を開催しています。職員のキャリアアップに合わせて外部研修にも参加をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和気町地域密着型サービス連絡協議会(2ヶ月に1回開催)へ出席しています。また、研修会等へ参加する際に、交流へ繋がるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と今までの生活情報や不安なこと、要望などをしっかりと話し合い、少しでも安心して入居して頂けるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族からの意見、要望などに重点を置いてアセスメントを行なっています。ご本人、ご家族から安心、信頼を持ってもらえるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの意見、要望などを聞いたうえで、ここでのご本人にとって一番必要な支援、サービスを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人をよく見て、可能な限りできることに取り組んで頂くように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	交流会等での屋内外での清掃作業、面接時の居室の片付け、衣類の整理などをお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、現在は面会を中止していますが、馴染みの理美容室の訪問を受け、散髪の支援等を行っています。	ユニット間のドアを開放しており、自由に隣のユニットに行くことができることから、知り合いと話しやすい環境が作られている。開設当初から働いている職員もいて、利用者にとって安心感のある雰囲気広がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の様子、状態、関係などを配慮し、ご利用者同士の穏やかな関係が保てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の要望を重視し、今後の生活に対しても出来るかぎりの相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から、今までの習慣や思い、暮らしかたの希望を伺い、できるだけご本人の希望に添った暮らしかたを支援していきたい。	基本的に意向は本人に聞いている。本人が話せない方でも、選択肢を少なく、2択にして聞くことで、出来る限り思いを聞き取れる工夫を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャーやその他の関係者から、出来る限り情報をいただき、本人理解に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個々のご利用者の体調把握、生活状況の変化など、十分に気を付けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を含め、ご家族、スタッフなどで話し合い、ここでの生活が現状を維持し、満足感のある生活が送れるようなケアプランを心がけています。	職員ごとで介護力に差は出るが、利用者の身体機能を維持しつつ、安全で統一したケアを見出すようにしてプランのすり合わせをしている。プランの実行状況は記録で毎日チェックして職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、入浴、毎日の生活などを、個々に記録し、職員間で情報を共有し、ケアプランの作成や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の一人ひとりの様子、状態に応じた支援やサービスを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域のお祭り、初詣などに参加しています。今年度は中止でした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望している医療機関への受診を職員対応にて実施しています。特別な受診はご家族対応をお願いしています。	かかりつけ医が急に閉業したため、現在は新たな医院に変わる準備をしている。他科受診は職員が対応し、詳細な通院状況は、職員から医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に病院看護師の訪問があり、健康面で気になることなどを相談し、適切な健康管理や病院受診などに繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの連携や可能な範囲で病院へも足を運び情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会、地域推進会議の集まりなどで看取りについて説明し、理解を得ています。ご家族も安心されるよう、事業所でできることを説明しながら、方針を共有しています。	看取りについては、入居契約時に説明をしている。看取り期に入ると改めて家族へ説明し、意向を確認している。看取り後は会議を行い、その方の忍びケアについて、見つめ直すようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防にお願いして、救急手当、初期対応などの訓練を行っています。マニュアルの確認なども定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の避難訓練は年2回実施しています。地域推進会議等で地域との連携も築けていると思います。	夜間想定火災も含めて避難訓練を実施している。現在は、地域と合同の訓練は行っていない。災害時は、近くに車いすでも避難が出来るような避難場所がある。町の緊急時用の端末機があり、ボタンを押せば役場に通報が行くようになっている。	避難訓練は一人ではできないので近所の人の力添えをお願いし、地域の方と一緒にするとともに、基本的な災害対策を伝えてはいかげでしょうか？

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご利用者の性格や人格に添った言葉かけ、対応に気を付けています。	利用者は「～さん」と親しみのある呼びかけをしている。トイレや入浴の誘導の時は、周囲の利用者に聞こえないよう配慮した声掛けをして、プライバシーを守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかりと意思決定のできる方には、ご本人の気持ちや希望なども伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限のルールの中で、ご本人の意思で自由に過ごしてもらっています。モンテッソーリケアを取り入れたことで、よりその人らしい一日を考え、支援するように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方には、お風呂の準備などをお願いして、好きな衣類を選んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分でできる方には、食材の準備、片付けなども手伝ってもらっています。	食の細い利用者のことで、家族に問い合わせたら「パンをおやつ代わりに食べていた。」と聞き、パンを間食するようになって食欲が戻る事があった。食形態については、食事の様子を確認して細やかに調整している。地域的に食材も豊富で旬の野菜も多く使った料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量などを記載し、ご本人の健康状態の把握や維持を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で歯磨きができるように支援したり、毎日、夜間には入れ歯洗浄を行っています。また、歯科医師や歯科衛生士の訪問が定期的であり、必要な歯科治療と共に口腔ケアも実施しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全てのご利用者の毎回の排泄、排尿記録を取り、排泄パターンを掴み、少しでも自立に向けた支援をしています。	出来る限りトイレで排泄が出来るように、一人ひとりの排泄パターンを掴んでいて、失敗のないケアを目指した支援を行っている。それ以外にも利用者の表情を確認し、臨機応変に排泄誘導を行っている。オシメを利用されている方は殆どなく、紙パンツから布パンツに変更された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やしたり、医師とも相談しながら定期的な排便があるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事や特別なことが無い限り、原則、午後に入浴を行っています。	日中よりも夕食後の入浴を好まれる利用者は、入浴時間を個別に変更し、対応している。また、本人が入浴への意欲がある時は、臨機応変に時間変更の対応をしている。入浴前に利用者が入浴剤を選び、入浴を楽しめるような演出をしていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各ご利用者が自由に居室、リビング、畳の部屋などでくつろがれています。夜もそれぞれ好きな時間帯に休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を活用し、院外処方の方は薬剤師と連携し、管理しています。院内処方の方は、管理者が医師、ご家族と連携し、管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	巻き寿司を巻いたり、おやつ作りなど、毎月色々な行事を企画し、準備段階から手伝っていただいています。また、畑での野菜作りも取り組み始めました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため、外出行事などが中止となっています。定期受診などは行っているが、戸外への外出を控えている状況です。	気候の良いときは、屋外で食事をしている。近隣は自然も多く、散歩を兼ねて花見や川のせせらぎを聞きに行っている。気候が良い時には、徒歩もしくは車イスで診療に行き、楽しい会話が飛び交っている。車で受診に行くときは、途中で家族や親戚の家へ立ち寄ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、預り金はしていません。基本的にはご家族にお願いしています。おやつや買い物へ出掛け、支払いの機会は随時設けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話をかけてもらったり、かかってくればご本人と話してもらいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は色彩でわかりやすくコントラストをつけたり、写真やイラストを掲示しています。また、季節毎に羽子板、お雛様、クリスマスツリーなどを飾っています。また、日々の写真を飾ったり、あぐりの新聞、クラフトで作った作品などその都度掲示しています。	手先の器用な職員を中心に壁画やクラフトを作成し、利用者が季節を味わえる空間作りをしている。天窓からの日差しが強い所は、すだれを使って柔らかい木洩れ日のような光が差し込む工夫をしていた。利用者同士が好きなことができる配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に1人机を設置し、活用しています。また、自室、ソファ、畳の部屋など、それぞれお好きな場所で自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が持って来られた家具、カーテン、写真など、馴染みの物があり、落ち着かれています。安全性も考えながら居心地の良い居室作りを考えています。	居室内には、家族の写真と名前を分かりやすく掲示し安心感が高い。家族は、定期的に孫やひ孫の写真を持ってこられ、写真を貼り替えるとともに、利用者と一緒に成長を喜んでいる。タンスは棚ごとにラベルを貼って、利用者や職員が分かりやすいようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が職員に尋ねなくても、自らできるように、秩序感のある環境設定に取り組んでいます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300602		
法人名	株式会社 メゾネットホールディングス		
事業所名	グループホーム あぐり(B)		
所在地	岡山県和気郡和気町日室124-1		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3392300046-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2-2-18
訪問調査日	令和 4 年 6 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の時間の流れを大切に、モンテッソーリケアに取り組んでいます。ご自分で出来る限り取り組めるよう、秩序感のあるわかりやすい環境設定に努めています。

職員自身も人的環境となり「見る」「促し」「待つ」姿勢に努めています。生活の中で役割を持っていただくことで、ここでの「生きがい」「やりがい」へつながるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新しい職員が、ベテランとともに助け合い、家よりも癒せれるくらい温和で、施設が以前より穏やかな雰囲気となっている。ユニットごとに自由に動け、利用者や職員と話ができやすく個人の不安以上に、相談に乗る場合が多々ある。装飾も自分で創作する職員がいて、自由に任せた雰囲気となっている。女性から男性の管理者になったユニットも前向きに新しいことにチャレンジしていて、家族が協力的なことから、コロナ対策をしながら花見も行った。また、お花見と称して花見弁当も出し、ストレス解消となった。入浴拒否の方に対しても考え方を変えて、夕食後に入浴できるひと手間かけることで、すんなりとした入浴ができ、職員も納得がいく心配りに満足し、有難い入浴ともなっている。全体的に声掛けも優しく、「ちょっと待って」のロックの言葉が減った。「あんたこれができてないが…」ということがなく、チームとして役割分担やそれ以上の関係を以って愛情を持っていた。人が人を育てていることで、利用者の行動と思いに笑顔を運んでいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、施設内に理念を掲げています。また、C会議(リーダー会議)、D会議(職員会議)などで確認しています。	玄関や各フロアのリビングに理念を掲示して、いつでも確認できるようにしている。会議の場で、理念について振り返り、理念に基づいたモンテッソーリケアが行えるように話し合っている。	地域との密着が出来るように職員一人ひとりの思いをしたためてはいかがでしょうか？	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染のため行事は中止になっています。電話などでの連絡は継続して行っています。	施設長は、役場や病院の関係者、町内会の方々との繋がりも深く、何でも話せる関係が出来ている。職員も地元の方が多く、近所づきあいも良好に行えている。また、施設横の道路が中学校の通学路になっており、挨拶を交わし、より深い関係となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、モンテッソーリケアをはじめ、認知症ケアの実践を報告しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、そのうち年3回は全利用者のご家族も交えて開催しています。そこで話し合った意見、要望を参考にして、より良いサービスにつなげられたらと思っています。今年度は中止しましたが、文書で報告しています。	コロナ禍であるため、会議の書面を役場と区長へ持参している現状である。意見は、持参時や電話にて聞き取っていて、日頃から何でも相談ができる関係となっていて、8月より運営推進会議を再開し、地域の方にも参加をお願いしている。		
5	(4)	岡山市北区岩井2-1-37 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議、地域密着型サービス協議会などを活用して、意見交換や相談、相互の助言を行うなど、より良い関係づくりに努めています。	役場への対応は本社がしている。施設長も役場の担当者とも何でも話せる関係が出来ている。地域密着型サービス協議会の報告書は、役場から定期的に送られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はこれまでの経緯も踏まえ、現在施錠をしています。定期的に研修や身体拘束廃止委員会を行い、防止に努めています。	玄関の施錠は、安全面を考え行っているが、両ユニット間のドアは解放されており、自由に行き来できるようにしている。委員会や研修では、身体拘束に至る可能性のある不適切なケアについて話し合い、スピーチロックも殆どみられなくなった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のC会議、D会議で話し合いを行っています。また、それに関する研修も実施し、職員全体の意識向上に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者の方もおられるので、行政の主催の研修などに参加して、皆で理解して活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者から十分な説明を行っており、ご家族は理解、納得されていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交流会での意見の交換、面会時の意見、希望などの傾聴、苦情・要望などの対応させて頂いています。意見、苦情がある場合は、その都度、皆で話し合い解決するように心がけています。	ご本人の意思が伝えられない方は、ボディランゲージや表情で意向を汲み取るようにしている。ご家族とは、電話連絡を密にすることで、良い関係性が取れるようになり、情報の確保ができています。昨今の感染対策についても、理解と協力を得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員に業務報告書を提出してもらっています。その中の意見を拾い、C会議、D会議にて検討しています。適宜、面談も行っています。	職員と施設長間の風通しも良く、職員同士が長所短所を補い合える関係作りが出来ている。会議の後も茶話会を開き、積極的にコミュニケーションの場を作っている。施設が第2の我が家のように話している職員もいて、働きやすい環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見を聞き、なるべく期待に添えるように努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修に沿って、研修を開催しています。職員のキャリアアップに合わせて外部研修にも参加をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和気町地域密着型サービス連絡協議会(2ヶ月に1回開催)へ出席しています。また、研修会等へ参加する際に、交流へ繋がるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と今までの生活情報や不安なこと、要望などをしっかりと話し合い、少しでも安心して入居して頂けるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族からの意見、要望などに重点を置いてアセスメントを行なっています。ご本人、ご家族から安心、信頼を持ってもらえるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの意見、要望などを聞いたうえで、ここでのご本人にとって一番必要な支援、サービスを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人をよく見て、可能な限りできることに取り組んで頂くように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	交流会等での屋内外での清掃作業、面接時の居室の片付け、衣類の整理などをお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、現在は面会を中止していますが、馴染みの理美容室の訪問を受け、散髪の支援等を行っています。	ユニット間のドアを開放しており、自由に隣のユニットに行くことができることから、知り合いと話しやすい環境が作られている。開設当初から働いている職員もいて、利用者にとって安心感のある雰囲気広がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の様子、状態、関係などを配慮し、ご利用者同士の穏やかな関係が保てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の要望を重視し、今後の生活に対しても出来るかぎりの相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から、今までの習慣や思い、暮らしかたの希望を伺い、できるだけご本人の希望に添った暮らしかたを支援していきたい。	基本的に意向は本人に聞いている。本人が話せない方でも、選択肢を少なく、2択にして聞くことで、出来る限り思いを聞き取れる工夫を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャーやその他の関係者から、出来る限り情報をいただき、本人理解に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個々のご利用者の体調把握、生活状況の変化など、十分に気を付けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を含め、ご家族、スタッフなどで話し合い、ここでの生活が現状を維持し、満足感のある生活が送れるようなケアプランを心がけています。	職員ごとで介護力に差は出るが、利用者の身体機能を維持しつつ、安全で統一したケアを見出すようにしてプランのすり合わせをしている。プランの実行状況は記録で毎日チェックして職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、入浴、毎日の生活などを、個々に記録し、職員間で情報を共有し、ケアプランの作成や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の一人ひとりの様子、状態に応じた支援やサービスを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域のお祭り、初詣などに参加しています。今年度は中止でした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望している医療機関への受診を職員対応にて実施しています。特別な受診はご家族対応でお願いしています。	かかりつけ医が急に閉業したため、現在は新たな医院に変わる準備をしている。他科受診は職員が対応し、詳細な通院状況は、職員から医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に病院看護師の訪問があり、健康面で気になることなどを相談し、適切な健康管理や病院受診などに繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの連携や可能な範囲で病院へも足を運び情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会、地域推進会議の集まりなどで看取りについて説明し、理解を得ています。ご家族も安心されるよう、事業所でできることを説明しながら、方針を共有しています。	看取りについては、入居契約時に説明をしている。看取り期に入ると改めて家族へ説明し、意向を確認している。看取り後は会議を行い、その方の忍びケアについて、見つめ直すようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防にお願いして、救急手当、初期対応などの訓練を行っています。マニュアルの確認なども定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の避難訓練は年2回実施しています。地域推進会議等で地域との連携も築けていると思います。	夜間想定火災も含めて避難訓練を実施している。現在は、地域と合同の訓練は行っていない。災害時は、近くに車いすでも避難が出来るような避難場所がある。町の緊急時用の端末機があり、ボタンを押せば役場に通報が行くようになっている。	避難訓練は一人ではできないので近所の人の力添えをお願いし、地域の方と一緒にするとともに、基本的な災害対策を伝えてはいかげでしょうか？

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご利用者の性格や人格に添った言葉かけ、対応に気を付けています。	利用者は「～さん」と親しみのある呼びかけをしている。トイレや入浴の誘導の時は、周囲の利用者に聞こえないよう配慮した声掛けをして、プライバシーを守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかりと意思決定のできる方には、ご本人の気持ちや希望なども伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限のルールの中で、ご本人の意思で自由に過ごしてもらっています。モンテッソーリケアを取り入れたことで、よりその人らしい一日を考え、支援するように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方には、お風呂の準備などをお願いして、好きな衣類を選んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分でできる方には、食材の準備、片付けなども手伝ってもらっています。	食の細い利用者のことで、家族に問い合わせたら「パンをおやつ代わりに食べていた。」と聞き、パンを間食するようになって食欲が戻る事があった。食形態については、食事の様子を確認して細やかに調整している。地域的に食材も豊富で旬の野菜も多く使った料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量などを記載し、ご本人の健康状態の把握や維持を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で歯磨きができるように支援したり、毎日、夜間には入れ歯洗浄を行っています。また、歯科医師や歯科衛生士の訪問が定期的にあり、必要な歯科治療と共に口腔ケアも実施しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全てのご利用者の毎回の排泄、排尿記録を取り、排泄パターンを掴み、少しでも自立に向けた支援をしています。	出来る限りトイレで排泄が出来るように、一人ひとりの排泄パターンを掴んでいて、失敗のないケアを目指した支援を行っている。それ以外にも利用者の表情を確認し、臨機応変に排泄誘導を行っている。オシメを利用されている方は殆どなく、紙パンツから布パンツに変更された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やしたり、医師とも相談しながら定期的な排便があるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事や特別なことが無い限り、原則、午後に入浴を行っています。	日中よりも夕食後の入浴を好まれる利用者は、入浴時間を個別に変更し、対応している。また、本人が入浴への意欲がある時は、臨機応変に時間変更の対応をしている。入浴前に利用者が入浴剤を選び、入浴を楽しめるような演出をしていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各ご利用者が自由に居室、リビング、畳の部屋などでくつろがれています。夜もそれぞれ好きな時間帯に休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を活用し、院外処方の方は薬剤師と連携し、管理しています。院内処方の方は、管理者が医師、ご家族と連携し、管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	巻き寿司を巻いたり、おやつ作りなど、毎月色々な行事を企画し、準備段階から手伝っていただいています。また、畑での野菜作りも取り組み始めました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出行事などが中止となっています。定期受診などは行っているが、戸外への外出を控えている状況です。	気候の良いときは、屋外で食事をしている。近隣は自然も多く、散歩を兼ねて花見や川のせせらぎを聞きに行っている。気候が良い時には、徒歩もしくは車イスで診療に行き、楽しい会話が飛び交っている。車で受診に行くときは、途中で家族や親戚の家へ立ち寄ることもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、預り金はしていません。基本的にはご家族にお願いしています。おやつの買い物へ出掛け、支払いの機会は随時設けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話をかけてもらったり、かかってくればご本人と話してもらいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は色彩でわかりやすくコントラストをつけたり、写真やイラストを掲示しています。また、季節毎に羽子板、お雛様、クリスマスツリーなどを飾っています。また、日々の写真を飾ったり、あぐりの新聞、クラフトで作った作品などその都度掲示しています。	手先の器用な職員を中心に壁画やクラフトを作成し、利用者が季節を味わえる空間作りをしている。天窓からの日差しが強い所は、すだれを使って柔らかな木洩れ日のような光が差し込む工夫をしていた。利用者同士が好きなことができる配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に1人机を設置し、活用しています。また、自室、ソファー、畳の部屋など、それぞれ好きな場所で自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が持って来られた家具、カーテン、写真など、馴染みの物があり、落ち着かれています。安全性も考えながら居心地の良い居室作りを考えています。	居室内には、家族の写真と名前を分かりやすく掲示し安心感が高い。家族は、定期的に孫やひ孫の写真を持ってこられ、写真を貼り替えるとともに、利用者と一緒に成長を喜んでいる。タンスは棚ごとにラベルを貼って、利用者や職員が分かりやすいようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が職員に尋ねなくても、自らできるように、秩序感のある環境設定に取り組んでいます。		